

特別講座 南海トラフ地震にいかそう！

震災の経験と防災を語り、 若い世代に期待すること

—フォトボイス（写真と声）とともに—

東日本大震災で被災した女性たちが、その後の生活、地域社会、防災・復興の課題や提案など、多様な視点で撮影した写真と声（メッセージ）を紹介し語ります。震災経験と防災・減災について学び、共に考えてみましょう。

日時 10月9日（水）16：05～17：35

場所 静岡大学教育学部 B棟216教室

プレゼンター： よしみ さん（宮城県仙台市）

アケミ さん（福島県）

協カ： NPO 法人フォトボイス・プロジェクト

教育学部科目「人類社会と環境システム」（高大連携専門教養講座）池田担当回。学部・学年を問わず、この時間に他授業を履修していない学生は、この授業を履修してなくても聴講できます。事前申し込み不要。問い合わせ：池田恵子 ikeda.keiko@shizuoka.ac.jp 054-238-4597



家族のために

「市が防災無線がなかったことを謝り 真剣に反省しそれが今後の防災に役立てれば 裁判などすることはなかった」（声の一部）

よしみ 撮影 宮城県仙台市にて



毒を吸ってしまった柿は

放射性物質が私たちの暮らしの中に入り込んできた。毒を吸ってしまい捨てられた柿たち。

切り捨てられた住民（私）とダブってみえた。

（声の一部） アケミ 撮影 福島県伊達市にて

【この講座は、Yahoo！基金東日本大震災復興支援助成を受けています】

フォトボイス（PhotoVoice）は、1990年代初めにアメリカで開発された手法。社会的発言力の弱い立場の人々が自らの心情や経験、社会の課題を写真に撮り、「声」（Voice、メッセージ）もつくる。人権向上のための有効な手段として海外では広く実践されている。NPO 法人フォトボイス・プロジェクトは東日本大震災の女性支援に応用している。